

野田市郷土博物館・市民会館
令和7年度第1回博物館懇談会

日 時:令和7年12月4日(木)17時~18時30分

場 所:野田市郷土博物館1階展示室、野田市市民会館 市民つどいの間

出席者:博物館懇談会委員・小菅真人、沼野秀樹、米川幸克、郷土博物館・柏女弘道、
寺内健太郎、奥村麻由美、後藤智輝、稻垣沙希(書記)

議題:

1、特別展「野田の浅間様～石に刻まれた富士山への祈り～」について博物館展示室にて担当の寺内より展示解説を行った(議事録省略)。その後、市民会館つどいの間に移動し意見交換を行った。

○意見交換

館長:解説のご参加ありがとうございました。それでは、展示の補足をお願いします。

寺内:ギャラリートークの他に特別展講演会を(今回は)2回行い、野田の富士信仰についてもともと研究されていた石田年子先生にお話いただいた。(もう1回は)石田先生のご紹介もあり、富士信仰の研究が専門の大谷正幸氏にお話いただく。先ほど南部小(歴史クラブ)での拓本の話をしたが、上帽英之さんに来ていただき、墨を使う拓本とひかり拓本を比べる講座を行った。拓本講座ということで、少しマニアックなところではあったが、8名の方に来ていただいた。実際に開発者の方に来ていただいたので、それを目当てで来た方もいて、かなり突っ込んだ話を聞いたりだとか、光はどのくらいの強さが良いかなどの話をされていたところも良かった。(上帽さんは)奈良の方で関西を中心にやっている方なので、直接来ていただけたことも良かったと思う。

寺内:アンケートは、11月末で100枚くらい、(年代は)60代以降が6割超えるくらいだった。(居住地は)市内の方がその半分弱なので、市外の方が多いようだ。来館が初めての方も4割強だった。(評価は)4段階評価の「大変良かった」と「まずまず良かった」というのが9割くらいだった。コメントとしては、「石碑の数が多い」という方がやはり多くて、なぜ数が多いのかということはなかなか説明が難しいところだが、やはり江戸川の舟運で栄えたところで、石を建てる余裕があったというのが一つ言われているところだ。(石碑の)数は非常に多くて、東葛でこれだけ富士塚の碑が建っているというのは野田くらいで、流山や柏にはほとんどないなかで、野田で200基もの碑が残されている。あとは松

伏とか春日部も多く、やはり江戸川流域で見られるというのが特徴的なところ。あとは、「普段何気なく見過ごしていたけれども、結構数があるのですね」という感想など、身边にあるものですがなかなか気づいてもらえないということがあるので、そういうものを知るきっかけになったのが良かったかなと思う。あとは「子どもの頃から存在は知っていたけど、どんなものか知ることが出来てよかったです」という感想があった。また、評価は未回答だったが、「地図をもう少し詳しくしてくれると分かりやすい」という意見もあった。自治体名や主要な道路、鉄道などのランドマークを地図上に記載がほしいというもので、その方は都内から来た方で、野田は初めてで土地勘がないということだった。その点は今回あまり詳しくできなかったので、今後の参考としたい。以上です。

館長：そうしましたら、博物館の展示をご覧になってのご意見やご感想、ご質問などをお願いします。

委員：今日はありがとうございました。市内の浅間碑ということで豊富な写真資料の展示があって、大変見応えがあった。そのなかで、特に多くの個人宅の石碑を調査していること、それが結果的に所有者の気づきにもつながったというお話を聞いてとても興味深いと思った。そのほかにも、三次元測量した富士塚の展示があったが、そこにタブレットが置いてあって、動画で詳しく説明されていたのがとても素晴らしい。入口の展示との繋がりがもう少し詳しくわかると、見学者の発見にもつながったのではないか。加えて、(スタンプラリーの)パンフレットにもあったが、市内の各館で富士山をテーマにした展示を一斉に連携して行っていることもとても素晴らしいと思った。もっと宣伝をしても良いのではないかと思うくらいで、今回は展示施設が中心だったが、例えば市内の富士見百景のような見どころなども加えて、富士山を実際に眺めながら、展示も観て市内をぐるっとまわれるような企画になっても良かったと思った。一方で、説明を伺うなかで展示内容をより理解できることも多々あった。例えば、年代や、全国から地域に視点が移っていくような順路みたいなもの、また先ほどもお話があった「なぜ野田市は石碑の数が多いのか」というプロローグのような展示、小まとまり同士を繋げる説明パネル、あとはアンケート結果にもあったが、簡単な概略図のようなものがあると、より理解が深まったと思った。広報や情報発信みたいなものも必要になると思うのだが、何か今後新たな戦略のようなものがあればぜひ教えていただきたい。以上です。

寺内：スタンプラリーですが、「地域づくりネットワーク」という取組のなかで、

ちょうど開館20周年を迎える茂木本家美術館が富士山の絵画を多く収蔵しており、そこから徐々に広げていった。東京理科大学でも大学の創立者が富士山の観測に関わっていたということもあった。スタンプラリーなので、スタンプが置ける場所となるとやはり施設に限られてしまうところもあり、富士見百景としては、(千葉県立) 関宿城博物館に集約した。広報が弱いという点は、最近SNSをやっている博物館も多いなかでうちはまだなので、そういうところも見据えて今後やっていけると、写真映えするようなところもあると思うので、展示に来てくれるきっかけになれば良いと思っている。ありがとうございます。

館長：ありがとうございます。

委員：今、広報が弱いというお話があったが、私の知り合いの方がこの展示を観てきたと言っていた。中里の古いお宅の方なので、自宅に浅間様の碑があったから来たのかどうかわからないが、なぜ来たのか今度聞いて見たいと思う。あとは、内容が難しいので子どもたちが興味を持つかどうかはわからないが、なぜ富士山なのに浅間様と呼ぶのか、また講の概念がよくわからない。私は小さい頃、講と聞いても理解が出来なかった。その辺を説明してもらえるようなものがあればよかったです。あとは南部小歴史クラブで拓本を行うのは良い経験だなと思う。私も行きたい。

寺内：今回どこまで説明しようかというのは結構悩んだ。野田らしい部分をなるべく出そうとしたら、基本的な部分が欠けてしまった。最低限必要な用語は補助プリントのようなものを配布するというのは出来たと思う。この点も(今後の)課題にしたい。ありがとうございます。

館長：ありがとうございます。

委員：聞こうと思っていたことがまさにお話に出てしまったが、「野田の浅間様」と言っているくらいなので、他所と違うところを出せたら良いのではないか。というのは、野田の浅間碑が多いのか少ないのかが展示を観てわからなかった。説明を聞いて多いのがわかって納得したが、ではそうするとなぜ野田は多いのかというところに来ると思うので、出来たらそういう説明もあればと思った。あとは、野田には浅間神社が1社あるのが説明されているが、他にはあるのですか。

寺内：浅間神社自体は市内に他にもあるが、浅間神社と富士講はまた別のものだったりもする。

委員：浅間大神の碑が建っていると、講があったのだなとか、たくさん碑があるということは講もたくさんあったのだなと。昔から野田は人が多かったのでは

ないかなと自分のなかでは考えていたのだが、浅間様に触れるのだったら、浅間神社の話であったり、浅間神社はコノハナサクヤヒメが主祭神になっているが、講の場合は浅間大神になっている。こうした違いはどうなっているのか、前々から疑問もあったので、そういう点もわかれれば良かったなと思った。非常に興味をそそられた。

寺内：ありがとうございます。先ほどのお話にも通じるが、どこまで解説を入れるかというのは、富士信仰（の概要を説明すること）それだけでひとつ展示ができるようなものもあるので、そこは今回は見送ってしまった。

委員：私個人の感想だが、富士山が綺麗に見えるところに碑が多い気がする。遠くからでも綺麗に見えるところに碑が建っている。今の時期の夕方頃は最高に綺麗に見える。あれを見ると信仰の対象になるのがすごくよくわかる。

寺内：ちょうど展示の終わり頃に綺麗に見えるという…。

委員：信仰心だけではいかないだろう。絶対に遊びも含まれている。

寺内：（例えば）伊勢講もそうだと思う。

委員：これは野田が栄えていた証拠じゃないかと思うが。

寺内：そういうところがどこまで書けるかなというところが難しいなど。

委員：豊かだったから講がこんなに多かったという、逆引きにもなるのでは？確証もないが…。

寺内：仰るとおりだ。やはり野田は講が多いというのが特徴的で、県内だと千葉市にも多い。木更津など房総半島の方も多い。

館長：ありがとうございました。広報のこともそうだが、展示の解説についても、今回の特別展に限らずどの展示でも、やはりお客様やボランティアの方からも言われてしまうことでもある。確実な正解というものは展示の解説においても無いかと思うのだが、よりターゲットに対して情報を届けられるように、これからも考えていきたいと思う。また、今回説明の方を省いてしまったが、スタンプラリーは、台紙にあるとおり、市内6つの施設と連携してやっている。「地域づくりネットワーク」という、博物館関係施設のネットワークのなかで富士山関係のスタンプラリーをやろうということで、特別展にからめていろいろな所と連携できたということが今回新しい取組ではあったと思う。あとは分厚い図録ができ、こうして記録として出しておくことで後々まで残っていくのかなと思う。

寺内：図録の後ろに人の名前がたくさん載っているが、これが一つ野田の富士講が盛んだった証拠になると思う。お金をいくらかけて造られたかということも

資料的に面白いところであり、富士講の研究者の方もこの点が非常に面白いと話されていた。（こうした資料については）調査報告書という形で、別冊で発行している博物館も多いが、一般の方はなかなかそういうものは読まない。

館長：身近な石碑を見直すきっかけになってくれれば良いと思う。ありがとうございました。次回以降の展覧会についても 2 つご紹介したい。

後藤：令和 7 年度最後の企画展で、今回は戦争をテーマにして、「野田市域の人々と昭和の戦争」というタイトルで行う。（ポスターを見せながら）こんな感じのポスターになる。期間は 1 月 4 日（日）から 3 月 23 日（月）まで。主旨としては、今年度は戦後 80 周年になることから、野田市と昭和の戦争に関する展示を開催する。今回の企画展では、昭和初期の時代背景だったり、その後戦争が始まって、戦争後半から末期、そして終戦という 3 つの時間軸から軍隊と野田市域の人々の関わりや生活を振り返り、野田における戦争の影響を改めて見つめ直すという展示を開催する。今回は今までの企画展と違い、博物館 1 階展示室入って左半分を使って展示を行う。残りの半分は別の展示であり、同時開催という形で千葉県北西部地区文化財行政担当者連絡協議会という、千葉県北西部の文化財担当者や博物館学芸員が集まって行っている発表会があり、この団体と同時開催で展示を開催することになっている。タイトルは「けんかしないで！～地域に残る争いの記憶～」ということで、展示室の右半分で展示をする。こちらは争いをテーマにしている。関連事業に関しては、学芸員による展示解説を全 4 回、1 月 17 日（土）、2 月 14 日（土）、2 月 22 日（日）、3 月 14 日（土）予定している。もう一つイベントとして、「戦時中のお話を聞く」というタイトルで、元野田市郷土博物館館長・元國學院大學栃木短期大学教授の下津谷達男先生にお話しいただく。戦時中の体験をされている方で、当時小学生という方はいらっしゃるが、下津谷先生の年代の方は少ないというのもあり、野田で生まれ育ち、戦時に旧制中学時代を過ごされた下津谷先生から戦時中の様子や当時の学校生活についてお聞きするという内容のイベントを開催する。軍事教練なども受けたようで、今回の展示にあたって、色々な方に戦時中の経験のお話を聞くなかで、なかなか軍事教練を受けていた世代の方は残っていないので、貴重な機会になるかと思う。こちらは 3 月 8 日（日）に開催する。概要としては以上である。

館長：またチラシができましたらお送りする。次回の懇談会がこの戦争展の時期になるので、また展示室の方で解説を行う。そして手元にチラシがあるかと思うが、来年 4 月の展示について担当の稻垣から説明をする。

稻垣：手元のチラシをご覧いただき、来年度4月からの展示になるが、学芸員がテーマを決めて、それをもとに市民の方から資料を公募して、思い出やエピソードとともに展示をする市民公募展を開催する。今回のテーマは、皆さんが日常生活で使用している「入れもの」ということで考えている。「入れもの」は、ものを入れるとか包む、守るなど、実用的な役割を果たすもので、そうした私たちの生活にとって身近な「入れもの」は、日々使われていくなかで、暮らしに溶け込みながら思い出とか記憶そのものを包み込んでいるもの、という視点で展示をしたいと思っている。「入れもの」を生活の道具としてのみ捉えるのではなく、人とのものとの思い出を繋ぐもの、また日々の暮らしを映すものとして募集することで、自分では気づかないけれども、その方ひとりひとりの暮らしに息づく文化とか感性というものを感じてもらいたいという趣旨で展示を行いたい。既に委員の皆様のなかにも直接お声掛けさせていただき、展示のご協力をいただける方もいらっしゃるということで、本当にありがとうございます。現在も募集中となりますので、ぜひご出品のご検討をいただければありがたいと思っています。以上です。

館長：市民参加型の企画展の一つということで、公募展を来年の4月から開催する予定です。ご説明は以上となります、全体を通してご質問やご意見がありましたらいただければと思います。

委員一同：(特に意見等は出ず)

館長：今日はありがとうございました。